

第3学年〇組 道徳学習指導案

平成25年 月 日 (〇曜日) 第〇時限

指導者 柳田 一帆

- 1 主題 察する心 2 - (2) 思いやり・親切
- 2 ねらいと資料

(1) ねらい

過ちを犯した人の心境や立場を考え、進んで相手を思いやる言動をとろうとする気持ちを高めることができるようにする。

(2) 資料名 「こわされたタワー」(出典：明るい心3年)

3 主題設定の理由

【思いやり・親切に関する心情と行動の分析】

(1) 本時で目指す子どもの姿

「〇〇さんは、気分が悪いみたい。代わりに自分がやるから、そっとしておいてあげよう」と、相手の気持ちを察して、行動するA児。このようなA児の姿を見ると私も心が温かくなってくる。

一方で、図工の時間に物を片付けるのを頼むと「どうして自分がやらなくちゃいけないの」と、発言するB児。掃除の時間に、教師のいないところでは、自分勝手な行動をして「またC児が…」と、他の子からの訴えが絶えないC児。このような姿を見ると私も胸が痛くなってくる。

価値を理解し、行動にも現れているA児のような子には、今の自分のよさをさらに高めていくための具体的なイメージをもたせていきたい。そして、相手の立場になり、思いやりのある親切な行動をしていこうとする気持ちを高めたい。また、周りの子の様子を把握することができずに、自己中心的に行動してしまうB児やC児のような子には、道徳の授業の話し合いの中で、相手の気持ちを考えることの大切さについて気付かせていきたい。

(2) 価値について

中学年における相手とは、身近な人々と捉えたい。これらの人々に対して、思いやりの心をもって親切にするという人間関係の広がりや深まりを期待していきたい。

相手に対する思いやりとは、困ったり、苦しんだり、悲しんだりしている人々の気持ちが分かり、それを自分の事のように受け止めることであると考えます。

ところが、困ったり、苦しんだり、悲しんだりしている人の気持ちは、外から見ただけではよく分からない。心の中まで分かるには、自分が困ったり、苦しんだり、悲しんだりした時の気持ちを思い起こし、「このような時に、自分も悲しかったから、相手も悲しいだろう」と自分の気持ちを相手に「遣る(やる)」ことが求められる。

このようにして、相手の気持ちが分かってくれば、相手の気持ちになって考えることができ、「相手のために何かをしないではいけない心」が自分の心にあふれてくると考える。

この心が、慰めたり、励ましたり、助けたりするという親切な行動を生んでいくと考える。

(3) 資料の解釈と取扱い

【資料の解釈】

よしおの作品への愛着

よしおは、図工の時間に竹ひごやマッチ棒を使ってタワーを作成した。作業の細かさに途

| 心情 | | (子どもの自己評価で) 相手の立場になって考えることができている | | | |
|----------------|---------|-------------------------------------|--------|---------|------|
| | | そう思う | まあまあ思う | あまり思わない | 思わない |
| 行動 (教師から見て) | そう思う | | A児 | | |
| | まあまあ思う | | | | |
| | あまり思わない | | | | |
| | 思わない | | C児 | B児 | |

中でやめようと思ったこともあったが、最後まで作り上げることができた。そして先生に「よしおさん、よくできたね」と褒められ、ここで作品に対する愛着の深まりを感じる。

きよしが困り果てた状況

しかし、ある放課の時、整頓係のきよしがロッカーの上の作品を整頓していた。きよしのひじがよしおのタワーに当たって、タワーを落として壊してしまう。「ごめんね、ごめんね」と何回も謝ったが、よしおはきよしに飛びかかっていった。そして、きよしは壊れたタワーと竹ひごを持ってきて「ぼく作るからごめんね」と言った。だが、よしおにはきよしを許す気配がみじんも見られなかった。ここにきよしが困り果てる気持ちを感じる。

よしおの気持ちの変化

その後、きよしといさむがずっと直している姿を見てよしおも直す気になってきた。最後によしおは「きよしくん、ごめんね……」と言い、きよしに一気に歩み寄っていった。

よって、この資料は「よしおの許せない気持ちと、きよしの許してもらえないつらい気持ちを想像させること」「許すことができなかつたよしおが、一生懸命に直すきよしの姿を見て心が変化していくこと」という二点を捉えることに適した資料であると考えられる。

【資料の取扱い】

本時では、まず、「よしおは、なぜそんなに怒るのか」と発問して、よしおの怒りの理由を考えさせていきたい。この発問で「よしおが一生懸命に作ったこと」「作品に対して深い愛着をもっていること」などの、よしおが作品をこよなく大切にすることを気付かせていきたい。さらに、よしおが許してくれなくて、困り果てるきよしの状況も押さえる。

次に、「よしおさんも直そうと思ったのはなぜでしょう」と発問する。この発問で、きよしや周りの友達が一生懸命に直している姿を見て、心が動くよしおの気持ちを捉えさせる。

最後に、思いやりの気持ちをもって歩み寄っていった「よしおをどう思うか」と発問する。よしお自身の人間性を問い掛けることによって、子どもたちが自分の生き方と照らし合わせて、よしおの思いやりを語ることをねらいたい。

4 本時の指導

(1) 準備 教師：表情絵、空中掲示物、自作のタワー、学習プリント

児童：道徳ファイル

(2) 子どもの集中力が持続する指導の工夫

子どもたち一人一人がよしおの気持ちを捉えやすくするために、学習活動に以下の工夫を取り入れていく。

工夫1 発問の工夫

相手の気持ちを想像しやすくするために、「この時、相手はどんな気持ちでしょうか。」と発問をすることで、相手の立場に立って考える視点をもたせるようにする。

工夫2 板書の工夫

よしおの心が変わるきっかけになった意見を子どもたちが発表して、教師がカードに記述する。前後の黒板を活用し、前後の黒板をロープでつなぐ。ロープにつるしたよしおの表情絵の後ろに記述したカードを貼っていく。よしおの表情絵の後ろにある程度カードを貼ることができたら、よしおの表情絵を一気に背面黒板のきよしに近付けて、よしおの背中を押したイメージをもたせていきたい。

工夫3 自己の生き方を考える工夫

よしお自身の生き方について問い掛けることで、子どもたち自身が自己の生き方について考えさせるようにしていきたい。

(3) 指導過程

| 時間配分 | 学習活動 | 指導上の留意点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | <p style="text-align: center;">前 面 黒 板</p> <p>よしおのこをどう思うか ○壊されたよしおさんが「ごめんね……」と言ったのはすごい ○相手の立場になるとよい ○思いやりの気持ちを出したい</p> <p>よしおさんも直そうと思ったのはなぜか ○一生懸命さが伝わったから ○何かしなくては ○自分も悪い</p> <p>なぜそんなに怒ったのか ○一生懸命作ったから ○苦労して作ったから ○先生にもほめられたから</p> <p>こわされた人 こわされたタワー</p> | <p style="text-align: center;">指導上の留意点</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">教室の道徳隊形</p> <p style="text-align: center;">児童机</p> <table border="1" style="margin: 0 auto; width: 100%; height: 30px;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p style="text-align: center;">○教師 →</p> <p style="text-align: center;">思考の流れが視覚的に分かる空中掲示物</p> <p style="text-align: center;">児童机</p> <table border="1" style="margin: 0 auto; width: 100%; height: 30px;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p style="text-align: center;">前面黒板 壊された側 背面黒板 壊した側</p> </div> <p style="text-align: right;">背面黒板</p> <p>こわした人 ○こわした人はどんな気持ちか ○ごめんなさい ○わざとじゃない ○しまった やってしまった</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5分 | <p style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 集中力が持続するように、思考の流れを視覚的に理解しやすくする。 </p> <p>1 大切な物を壊された時の相手の気持ちを考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 前面黒板と背面黒板の二つを利用する。 ○ 授業開始前に、道徳隊形にさせておく。 ○ 心の動きを表す空中ロープを、教室の中央につるしておく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 工夫1 《発問の工夫》 相手の気持ちを想像しやすくするために、「この時、相手はどんな気持ちでしょうか。」という発問をすることで、相手の立場に立って考えていく視点をもつようにする。 </p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料につながるように、事前に「大事な物アンケート」をとり、物にしぼって提示するようにする。 ○ 壊した人と壊された人の状況をつかみやすくするために、前面黒板に「こわされた人」背面黒板に「こわした人」という表示を付ける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25分 | <p>【予想される児童の発言】 A：ごめんなさいという気持ち B：わざとじゃないという気持ち C：しまったな、やってしまったなという気持ち</p> <p>2 「こわされたタワー」を読み、よしおの気持ちを考える。</p> <p>(1) タワーがつぶれた時から「きよしくん、ごめんね…」と言う時まで</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料理解を助けるために、前日までに資料を読んでおくようにさせる。 ○ 教師が作成したタワーを壊し、後ろのロッカーの上に置くことで場面を想起しやすくする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

発問：よしおさんは、なぜそんなに怒るのでしょうか。

- 完成して喜んだ気持ちと、代えがたい存在であることを押さえる。
- きよしは、何度もよしおに謝っており、それでもよしおに許してもらえず、困り果てている状況を押さえる。

【予想される児童の発言と問い返し】

一生懸命に作ったから

諦めようとしたが、苦勞して作り上げたから

先生にも褒められたから

問い返し

どれくらい一生懸命作ったのかな

問い返し

どんな苦勞をしたのかな

問い返し

どんな気持ちだったのかな

二度と作り直せないくらい一生懸命

タワーの細かい部分を作るのに何回も作り直した

うれしい気持ち
やった！という気持ち

(10) (2) よしおがタワーと一緒に直そうと思った時

- 背面黒板のきよしの周りに、「ごめんね」と書いたカードをいくつか教師が貼っていくことで、きよしが困り果てている状況をつかませ、よしおの心の変化を捉えさせる。

主発問：よしおさんも直そうと思ったのはなぜでしょうか。

工夫2 《板書の工夫》

よしおの心が変わっていく様子を考えやすくするために、教室上部の空間と前後の黒板を使って、表情絵を一気に移動させていくことで、気持ちの歩み寄りを視覚的に捉えることをねらう。

- よしおの表情絵をロープにぶら下げる。子どもたちが発言したことを教師がカードに書き、よしおの表情絵の後ろにカードを貼り、背中を押したイメージをつかませる。

【予想される児童の発言と問い返し】

わざとじゃないし許そうと思ったから

自分も悪いと思ったから

きよしがいっぱいあやまってくれているから

問い返し

どうして今になって許そうと思ったのかな

問い返し

何に気付いて悪いと思ったのかな

問い返し

どういう気持ちになってくる

ずっと一生懸命に直してくれているから

自分も言い過ぎて、きよしを傷つけていたことに気付いた

自分も何かしなくてはいけないという気持ち

| | | |
|--|------------------------|---|
| 10分 | 3 よしおの生き方から自己の生き方を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ よしおが直そうと思った気持ちを多く出させるために、子どもたちの様子を見て、周りの子と相談させるようにする。 ○ よしおの表情絵の後ろに、ある程度カードが貯まったところで、よしおの表情絵を教師が動かし、よしおの気持ちの変化をつかませるようにする。 ○ 「相手の気持ちを考えること」「自分も何かしなくていけないという気持ち」のことを何と言うかと問い掛けて、思いやりというイメージを子どもたちにもたせていく。 |
| <p>発問:みんなは、ごめんねと言った「よしお」のことをどう思いますか。</p> | | |
| <p>工夫3 <自己の生き方を考える発問> よしお自身の生き方を問い掛けることで、子どもたち自身が自己の生き方について考えることができるようにしていきたい。</p> | | |
| <p>【予想される児童の発言】 A：壊されたよしおさんが「ごめんね……」と言ったことは自分にはできないからすごい B：相手の立場になって近付いていくのが気持ちいい C：自分も思いやりの気持ちを出していきたい</p> | | |
| 5分 | 4 今後の生き方を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のこととして考えさせるために、教師がよしおの表情絵を持ち裏返す。子どもたちが発言する度に「そんな人がいる？」と問い掛け、身の周りの様々な顔を想像させ、子どもたち自身が自己の生き方を考えられるようにする。 |
| <p>発問：今日の授業の感想を書きましょう。</p> | | |
| <p>【予想される児童の発言】 A：相手の気持ちをよく考えて、自分ができることを見付け、友達関係を強めていきたい B：困っている人がいたら声を掛けたり、助けたりしていきたい C：相手の気持ちを考えて、いつまでも言い続けるのはよくないと思った</p> | | |
| <p>評価事項 思いやりの気持ちの大切さを理解し、今までの自分を見つめ、今後の理想の自分像を考えて書くことができている。【学習プリント】 □… 今後の理想の自分について記述することができない児童に対しては、「今までは～、これからは～」という文形を例示することで、記述ができるようにする。 ☆… 思いやりの気持ちをもって行動していこうという気持ちが十分高まっている児童に対しては、「思いやり」が友達関係を広げていくという教師の説話により、「信頼」「友情」等から他者との関わりを考えさせていく。</p> | | |